京都文教中学高等学校・宗教礼拝
礼拝（らいはい）
令和8年11月9日
4号

# 善因善果 悪因悪果

## ～思いやりの積み重ね・明るく正しく仲よい生活を～



『百喩経（ひゃくゆきょう）』というお経の中には、少し考えれば「それはおかしい」と、すぐに気づけるようなお話がたくさんあります。その中から、現代の私たちにとっても非常に大切な教えが含まれている「三層楼の喩（さんぞうろうのたとえ）」を紹介します。

『むかしむかし、あるところにお金持ちがいました。どれだけ無理なことであっても欲しいものは必ず自分のものにする、そんな生活をしていました。ある日、別の町へ行ったとき、そびえ立つ立派な三階建ての家を目にしました。「おお、なんと素晴らしい！ 私もあんな高いところから景色を眺めたいものだ」と感激した彼は、さっそく家に戻って大工さんを呼び、「あの町にあるような立派で豪華な三階を建ててくれ」と命じました。大工さんは承知して、さっそく地面を固め、頑丈な基礎を作り、一階部分の柱を立て始めました。ところがそれを見たお金持ちは、不思議そうにこう尋ねました。「これはいったい何を作っているのか？」、「何って、三階建てを作るための、土台と一階の部分ですよ」と当たり前のことを大工さんが答えると、お金持ちは怒り出しました。「勝手なことをするな！私が欲しいのは三階（の部分）だけだ。下の階なんていらん！ 今すぐ、三階だけを作れ！」大工さんはあきれて、「旦那様、それは無理な相談です。一階を作らずに、どうして三階を空中に浮かせることができましょうか」と言い返しました。お金持ちは自分の身勝手な注文を棚に上げ、思い通りにならないことにただイライラと怒りをぶつけていたのです。

このお金持ちの姿を見てどう思うでしょうか。「そんな無茶苦茶な話があるわけない」と思うかもしれません。しかし、私たちの心の中にも、このお金持ちと同じような「自分勝手さ」が潜んでいることがあります。たとえば、普段は自分から挨拶もせず、友達の気持ちや都合をまったく考えずに自己中心的なことばかり言っている人がいたとします。それなのに、周りから「あの人は自分勝手だ」と影で言われたり、少し距離を置かれたりすると、「なんで自分がそんなことを言われないといけないんだ！」と激しく怒り出す…。まさに、お金持ちと同じ「三階だけ」を欲しがっている状態です。

お互いに信頼したり、優しくしたりする「よい人間関係（三階）」は、相手を思いやり、配慮や感謝を積み重ねる「日頃の行動（一階・二階）」があって初めて成り立つものです。自分は誰への配慮も払っていないのに、「自分を良く評価してほしい」、「批判されるのは許せない」と怒るのは、土台のない空中に三階を建てろと騒いでいるのと同じなのです。仏教では、自分のまいた種がそのまま自分に返ってくるという「因果」を教えます。他者への思いやりという種をまいていないのに、良い結果だけを求めて自分の勝手さをまき散らすのは、自分の愚かさを証明しているようなものです。

周りの人との関わりの中でうまく進まないときは、一度立ち止まってみてください。自分は相手にどんな一階（配慮）を差し出せているか。互いを思いやる小さな土台を積み重ねた先にこそ、明るく、正しく、仲よく過ごすことのできる三階からの景色が待っているのではないでしょうか。